

# 平成 29 年度 そだちネットワーク部会活動報告

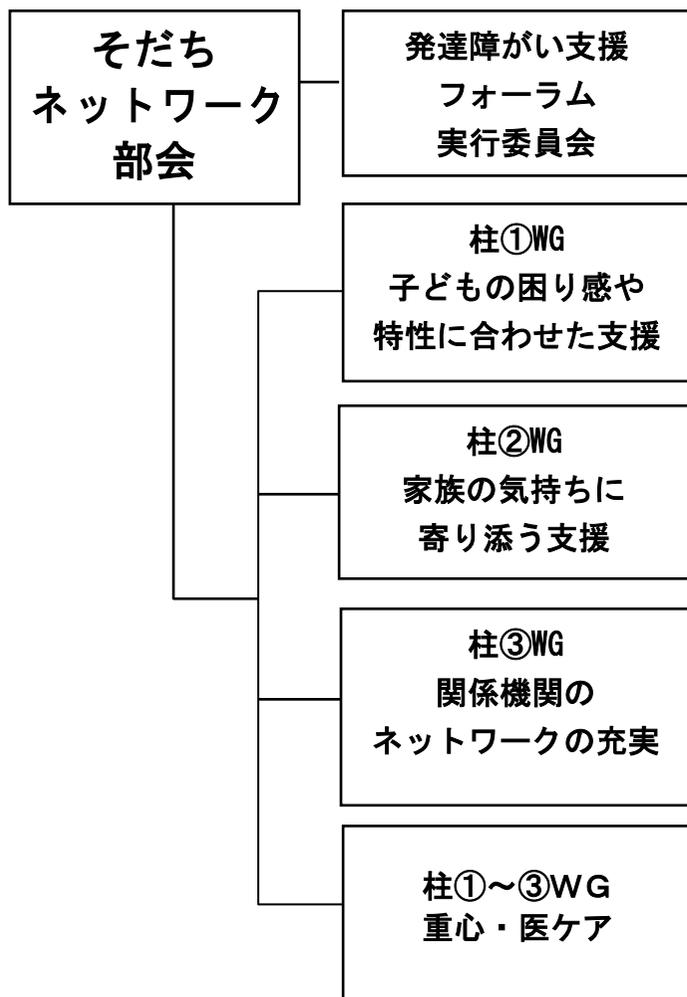
**【目的】** 様々な障がいや困り感を持っている子ども及び家族の気持ちに寄り添いながら、子どもや家族を支える地域の関係機関の連携体制を構築していくこと

～ 3 つの基本的柱～

①子どもの困り感や特性に合わせた支援 ②家族の気持ちに寄り添う支援（障がい受容の伴走者であること）③関係機関のネットワーク機能の充実

## 【主な活動】

## 【今後に向けて】



●実行委員会を5回開催し検討を重ね、平成30年7月7日の開催を次回の部会で承認予定。今回は、『特性を生かして自分らしく生きる』を全体テーマとし、講師はADHD（注意欠如多動性障害）の当事者であり医学博士の星野仁彦氏に決定した。

●義務教育段階の途切れないシステム作りを検討してきた。保育園から小学校6年生までの児の情報を追っていくような様式案が完成した。

●各市町村における具体的な相談先を持ち寄り、相談しやすい環境づくりについて検討した。相談につながる3つの要素のうち「場所」「機会」は意外とある事が分かった。それらを活かすためにも「人」の部分に力を入れる必要性を確認した。

●「支援関係者のための北信地域の相談マップ作り」学齢期から思春期における、【6市町村の相談窓口】【医療機関】【福祉サービスについて】の情報収集を行った。改めて目的と方向性を明確にし、それらに基づいた使いやすいマップの形を検討している。

●実態調査のまとめと、親の会を実施。要医療的ケア児者の課題が多く、今後緊急時の対応等を考えていく上で、「医療との連携」が課題になってくることを確認した。また、今後取り組む方向を明確にする為、この地域の実態を保護者に知ってもらい、ニーズを聞きとる必要がある。

平成30年7月7日豊田文化センターでの開催に向けて、実行委員会を中心に取り組んでいく。

ワーキンググループに、市町村の教育委員会に入ってもらい、更に具体的に検討していく。

相談につながる要素「人」に注目し、支援者のスキルアップの機会等具体的に検討していく。

目的を明確にし、それに基づいた使いやすい「相談マップ」を作成していく。

- ・親の会の開催（参加者の年齢を引き上げ年2回開催。病院見学や研修も行い、ニーズを確認していく）
- ・医療との連携の強化